

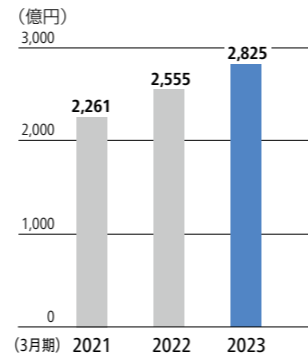
### 電子・デバイス



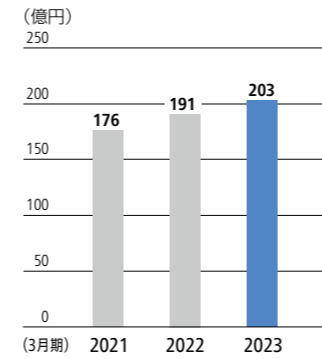
#### 主な事業内容

- 半導体装置
- 電子部品・材料
- 電子機器
- 半導体・デバイス
- ICTソリューション
- モバイル
- CCTVシステム
- データ、AI、SaaS

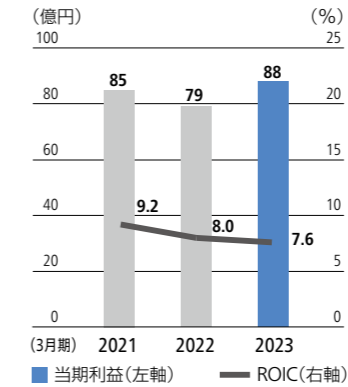
#### 収益



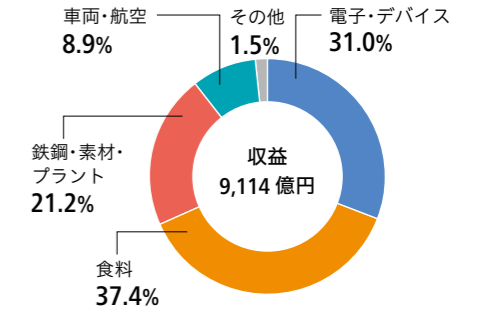
#### 営業活動に係る利益



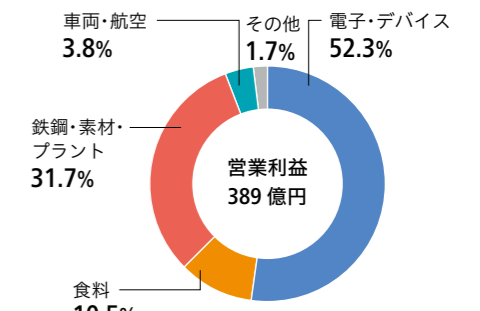
#### 当期利益※/ROIC



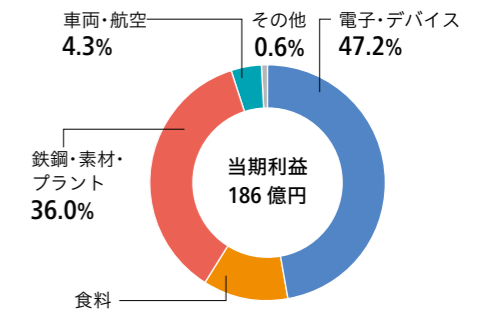
#### (2023年3月期) 収益構成比



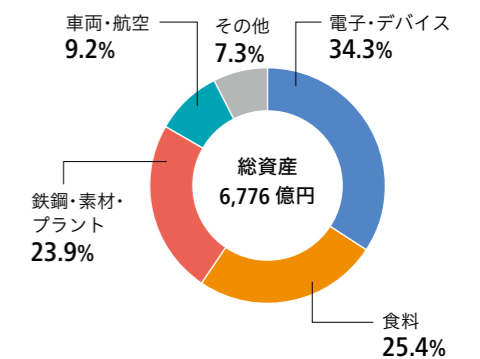
#### 営業活動に係る利益構成比



#### 当期利益※構成比



#### 総資産構成比



### 食料



### 食品

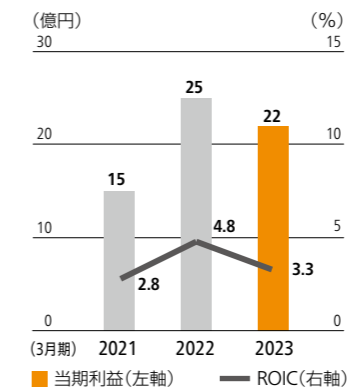
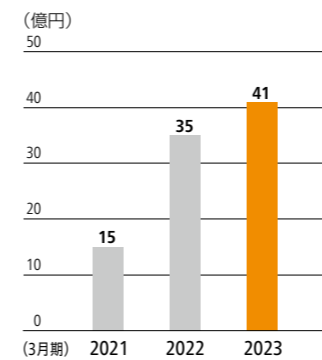
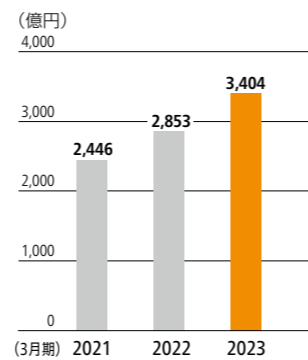
- 食品原料(農産・水産・飲料・酒類)
- 調理加工食品
- 農産加工品

### 畜産

- 畜肉原料(牛・豚・鶏等)
- 畜産加工品

### 食糧

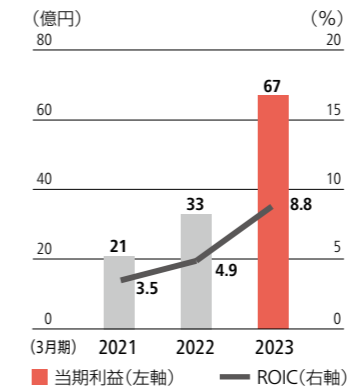
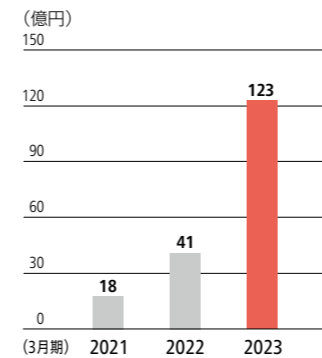
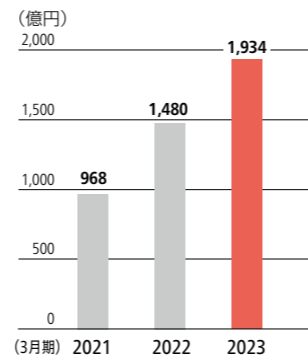
- 穀物・食品大豆・油糧種子
- 飼料原料、配合飼料



### 鉄鋼・素材・プラント



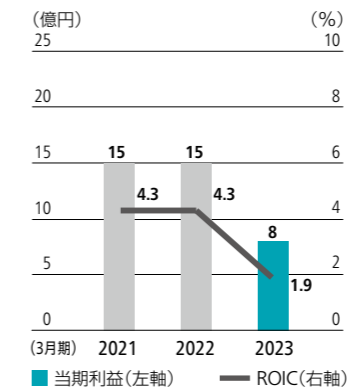
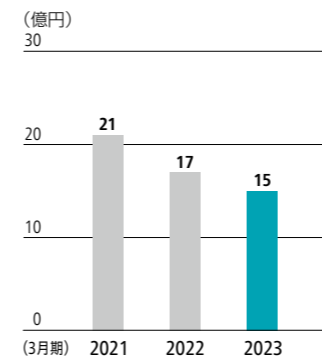
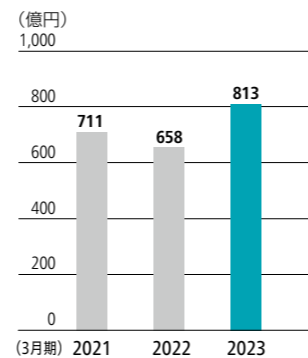
- 鉄鋼
- 鋼管
- 化学品
- エネルギー
- プラント・船舶
- 工作機械・産業機械



### 車両・航空



- 車両・車載部品
- 航空宇宙



※ 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 電子・デバイス

半導体装置、電子部品・材料、電子機器、半導体・デバイス、ICTソリューション、モバイル、CCTVシステム、データ、AI、SaaS



常務執行役員  
電子・デバイス部門長  
原田 雅弘

ICTソリューション、モバイル、電子関連の素材から部品・機器・装置にわたるバリューチェーンを展開し幅広い分野で独自の付加価値を提供しています。エレクトロニクスに関する確かな技術と豊富なノウハウでIoTやAIなどの新しい分野にも挑戦し、今までにない新たな価値を創造し社会の発展に貢献して参ります。

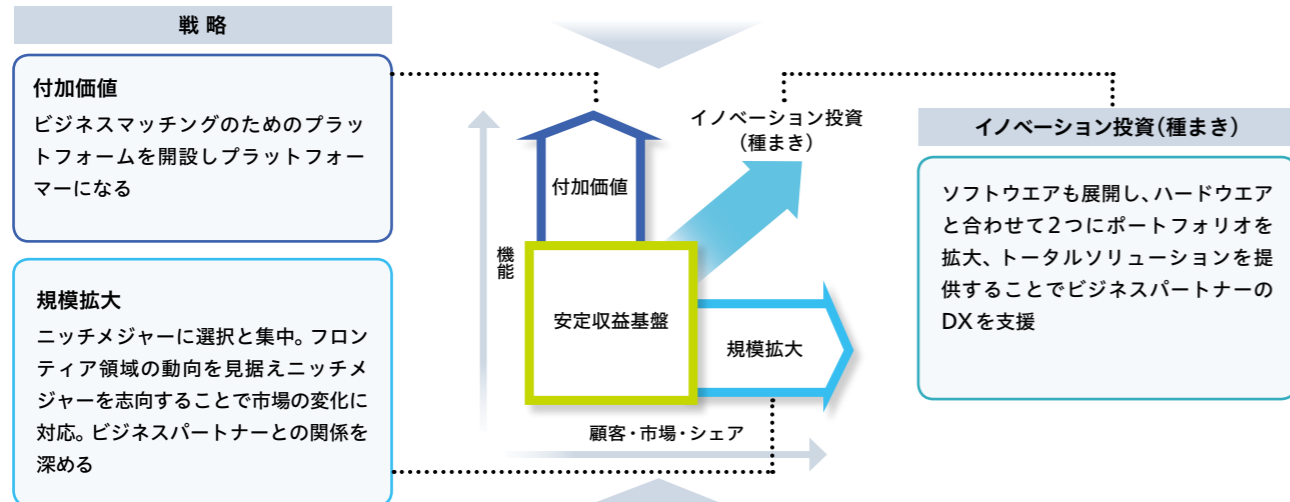
### 重点的に取り組むSDGs目標

当部門では、日々進化するデジタル技術で新ビジネスに取り組むことにより、産業と技術革新の基盤づくりに貢献する。また、リチウムイオン電池および全固体電池など次世代電池に係るビジネスを拡大することにより気候変動への対策に寄与していく。伝統産業のIT化、DX化に関わることで、有機的なパートナーシップを構築し、産業全体の効率・付加価値を高め、SDGsの様々な目的を達成したい。



## 市場の中長期展望

市場は拡大、変化が極めて早い。成功の鍵は、選択と集中、そして先進技術をキャッチアップすることだと考えています。



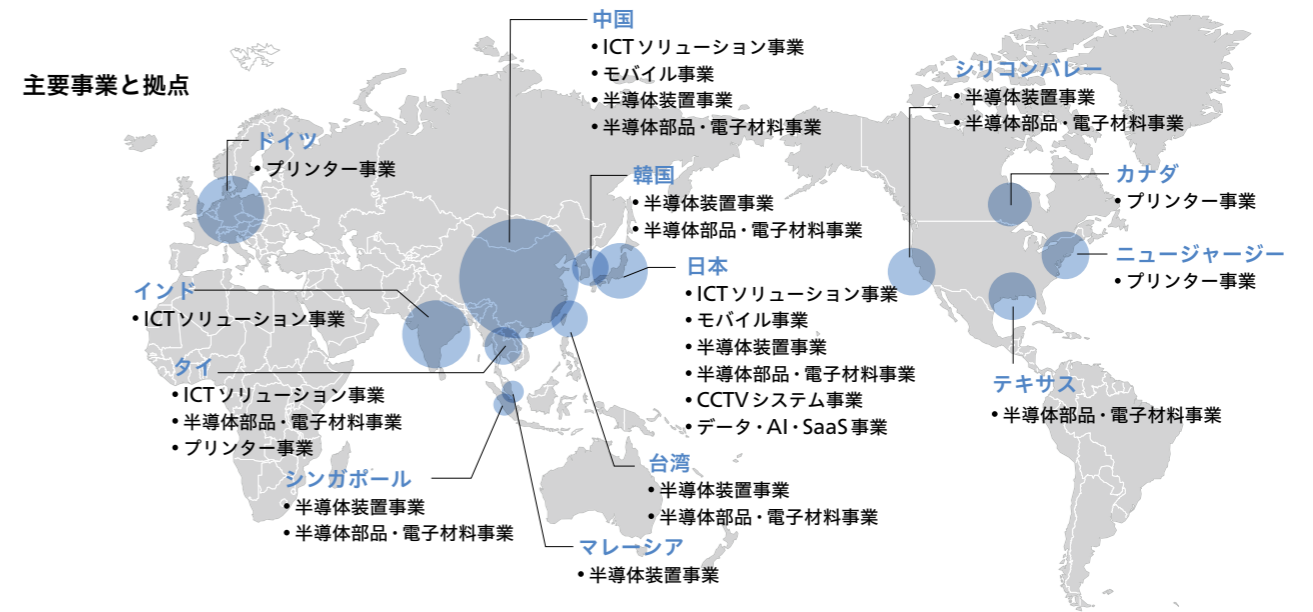
### 戦略やイノベーションを遂行する力(重要な資本)

知的資本	50年の歴史を有する電子・デバイス事業の知見
人的資本	電子・デバイスの生産・販売などの実務経験を有し、事業を創造&マネージできる専門人材
社会・関係資本	専門人材が継承し続けている、ビジネスパートナーからの信頼と長い付き合い

## 中期ビジョン進捗: 2023年3月期の主な取組み

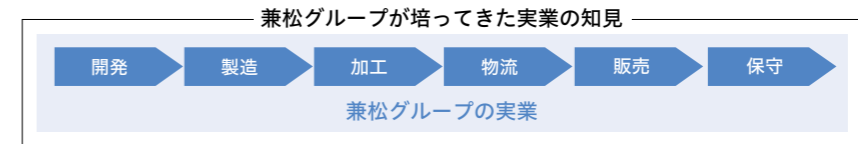
ICTソリューション事業ではインフラ構築やシステムの受託開発企業の株式を取得し連結子会社化しました。公共・文教分野での更なる事業拡大が期待されます。また、情報セキュリティの分野で広く事業を展開するグローバルセキュリティエキスパート株式会社の株式を追加取得し、近年高まるセキュリティ需要へ対応を強化しました。モバイル事業では関西エリアを拠点とする通信事業者の一次代理店や二次代理店の子会社化を進めるとともに、店

舗ごとの運営効率化を図りました。半導体部品・装置事業ではシンガポールの基板分割装置メーカーを子会社化、電子機器・電子材料事業ではカナダのパスポート用写真プリントシステムメーカーを子会社化するなどそれぞれの事業分野において中期ビジョン「future 135」の重点施策である事業投資による規模の拡大、付加価値の獲得を推進しました。引き続き2024年3月期を最終年度とする中期ビジョンの目標達成に向け重点施策を進めて参ります。



## 兼松グループが培ってきた実業の知見

電子・デバイス業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



## 事業環境の認識

<b>機会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>リモートワークの定着</li> <li>AI・IoT、ロボティクスおよび5G普及による関連技術・サービス市場の創出・拡大</li> <li>国内企業によるDX・GXの取組みが加速</li> </ul>	<b>アクションプラン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>VDIをはじめとするソリューションや回線等のサービス提供により、ICTソリューション事業、モバイル事業で収益基盤の強化を図る</li> <li>ICTソリューション事業、モバイル事業では関連ソリューションを、また、半導体部品・装置や電子機器・電子材料事業では関連商材を取り扱い、新たな価値提供による収益機会の拡大を図る</li> <li>ベンチャー企業を含むソリューション提供企業との協業、イノベーション投資、M&amp;Aを促進し既存ビジネスとのシナジーによる収益拡大を図る</li> </ul>
<b>リスク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティの高度化・複雑化や専門性を有する人材の不足、規制強化</li> <li>業界再編・基軸技術が及ぼす影響、技術革新</li> <li>国際情勢の変化・地政学的リスクによるサプライチェーンの分断と景気の後退</li> </ul>	<b>対応策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門技術を有する国内外企業との資本提携やパートナーシップ構築に基づくソリューション基盤の獲得・拡大</li> <li>企業・事業買収による規模の拡大、イノベーション投資による新商材・ソリューションの獲得・展開</li> <li>海外拠点機能拡大によるサプライチェーンの最適化と先進技術を活かしたポートフォリオの多様化</li> </ul>

## 長い付き合い お取引先からのコメント

当社は電子部品・半導体向けの貴金属めっき薬品の開発、製造、販売を行っている化学品メーカーで、設立53年目を迎えました。兼松グループとの取引は30余年にわたり、当事業歴の過半を共にしてきたこととなります。

電子部品の生産拠点が、日本から台湾、そして台湾から中国へと急速にシフトしていった際には、兼松グループの持つ顧客ネットワークのもと、当社製品の海外展開に多大なご支援をいただきました。当社技術者を兼松

グループの海外拠点に派遣させていただき、一方で兼松グループからの出向者を当社が受け入れるなど、人材交流を実施することにより、顧客満足度の向上に繋がりました。

電子業界での最先端のモノづくりにおいては、お客さまと直接繋がること、人のネットワークの重要性が変わることはありません。今後も、メーカーとしての当社のモノづくりの力と、兼松グループのネットワークの力とを合わせ、相乗的な成長を目指して参ります。



日本高純度化学株式会社  
代表取締役社長  
小島 智敬

# 食品

食品原料(農産・水産・飲料・酒類)、調理加工食品、農産加工品



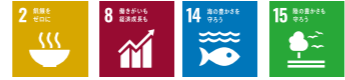
執行役員  
食品部門長  
西村 浩一

「食の安全・安心」をテーマに、メーカーポジションに立った視点で原料の調達から製品加工までの一貫供給体制を構築しています。農産物、水産物、コーヒー、飲料・酒類、調理食品など幅広い商品ラインアップで市場の多様なニーズに対応いたします。

### 重点的に取り組むSDGs目標

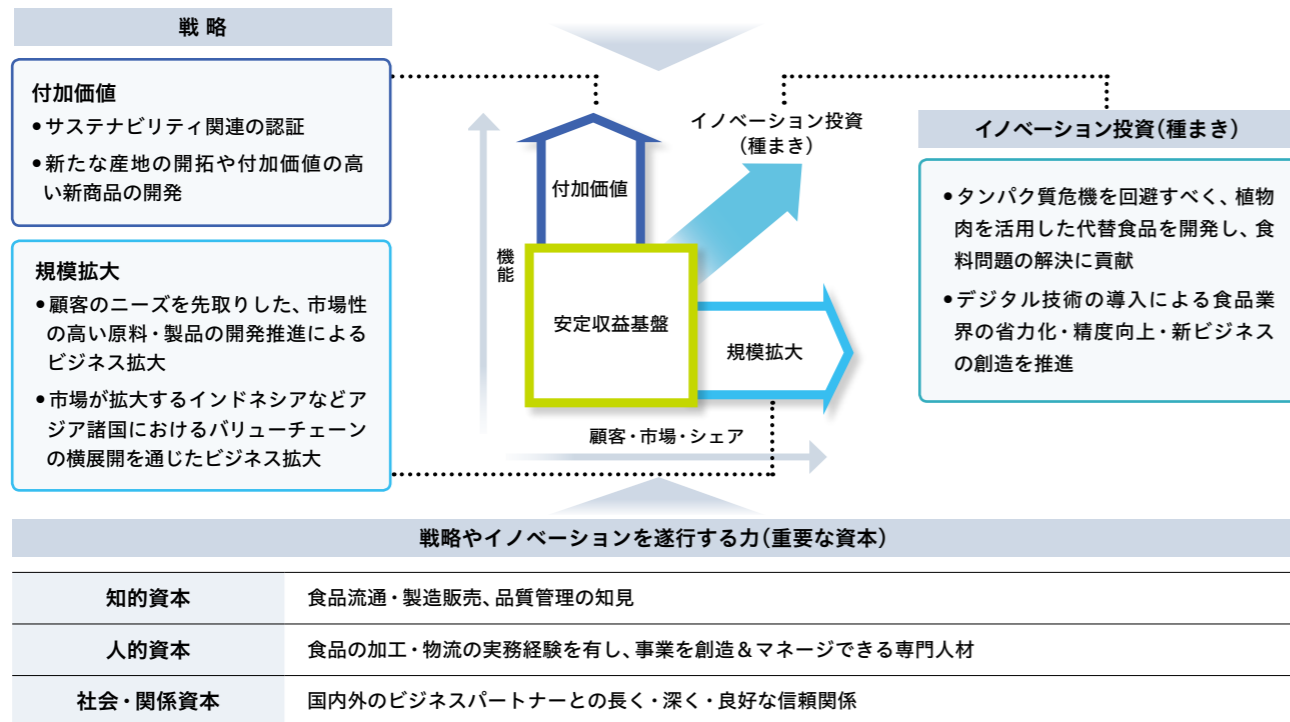
当部門では、レインフォレストアライアンス認証のコーヒーやMSC/ASC※認証の水産物など、地球環境や持続可能性に配慮した農水産物の取扱いを通じ、安定的な食資源の確保と地域社会に貢献する。また、代替食品の開発を通じ、新たなタンパク源を確保することで栄養へのアクセスの改善・加工食品の負の影響減・環境負荷の低減を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

※ MSC: Marine Stewardship Council (海洋管理協議会)  
ASC: Aquaculture Stewardship Council (水産養殖管理協議会)



## 市場の中長期展望

市場は、ライフスタイルや価値観の変化により消費者ニーズが多様化。成功の鍵は、マーケットイン志向だと考えます。



## 中期ビジョン進捗: 2023年3月期の主な取組み

食品部門では、世界各国のサプライヤーへの出資や独占契約、設備貸与を通じ、良質な海外産原料の調達力を強化しております。日本の消費者の高い品質要求を満たすため、専門家による製造・品質管理体制を強化し、安全・安心な食品の安定供給に努めています。内食・中食需要に応えるため、国内外の食品メーカーと協業して冷凍食品、アルコール飲料、コーヒー等リテール市場向けの商品開発をさらに強化しました。一方で、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する供給不安、さらには世界的インフレと円安による輸入コスト上昇に対応

するため、各種輸入原料につき、価格優位性があり、かつ安定供給が可能な代替産地の開拓を進めました。

また、消費者のSDGsへの意識の高まりに対応すべく、コーヒーや水産物など、サステナブルな原料の販売を加速しました。

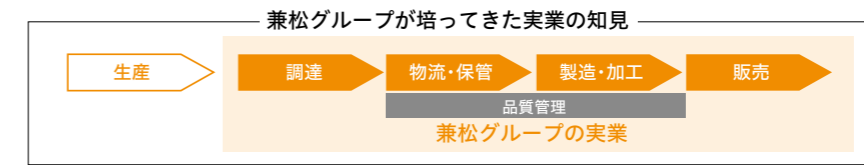
アジア市場においては、戦略パートナーとして出資した総合食品メーカーであるPT Cisarua Mountain Dairy Tbk (Cimory)と、食料での連携のみならず、DXやGXといった、兼松グループの総合力を活かした取組みを推進して参ります。

## 主要事業と拠点



## 兼松グループが培ってきた実業の知見

食品業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



## 事業環境の認識

機会	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の高齢化と健康志向の高まり</li> <li>食品業界における人材不足と人件費増加</li> <li>アジアにおける食品需要拡大と量から質への転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心で新鮮な農産物の産地開発</li> <li>簡便で美味しく調理可能な加工食品を世界の適所で開発・商品化</li> <li>DXを活用した選別・加工の省力化と品質改善</li> <li>日本ならではの高品質、安全・安心な食品を供給する仕組みづくりと地産地消ビジネスの拡大</li> </ul>
リスク	対応策
<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化・異常気象などによる農産物栽培の被害、加工製造拠点や物流への影響</li> <li>食品への異物混入などによる消費者の健康被害</li> <li>世界人口増加と食料資源枯渇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外生産拠点の分散によるリスクヘッジ。水源確保や栽培の推進</li> <li>ISO22000、FSSC22000をベースとした食品安全管理システムの強化</li> <li>持続可能で第三者認定された農産物や水産物の取扱い。循環型商品の推進</li> </ul>

## 長い付き合い お取引先からのコメント

Cimoryと兼松は2012年に初の共同事業としてPT. Kanemory Food Serviceを設立、それ以来両社にとって有益な事業に成長しました。兼松はインドネシア市場で事業を拡大できた一方、私たちは兼松が培った専門知識を活かして食品加工能力を向上させることができました。長年にわたって強力なパートナーシップを築いてきたことにとても感謝しています。

2021年の兼松によるCimoryの株式取得は、インドネシアにおける食品バリューチェーンの

強化、Cimoryの販売チャネルを活用した一般食品卸売事業への参入、インドネシア市場へ参入を目指している日系食品会社や小売業者への支援などを目的とした戦略的な取組みです。Cimoryと兼松のパートナーシップは、協業によって更なる価値を生み出すのと同時に、両社の専門性や経営資源を相互に活用することでエンドユーザーへの価値創造をより加速するものです。今後も未永く協力し合い、パートナーシップの強みを活かしつつ、更なる成功を収められることを期待しています。



PT Cisarua Mountain Dairy Tbk (Cimory)  
Group Founder & President  
Commissioner  
**Bambang Sutantio**

# 畜産

畜肉原料(牛・豚・鶏等)、畜産加工品

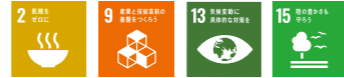


執行役員  
畜産部門長  
橋本 徹

業界トップクラスの畜産事業における長年のノウハウを活かし、原料供給源の確保から加工・販売までの畜産バリューチェーン構築により、お客さまのニーズに合った安全・安心で付加価値の高い商品の安定的な供給を提案しています。

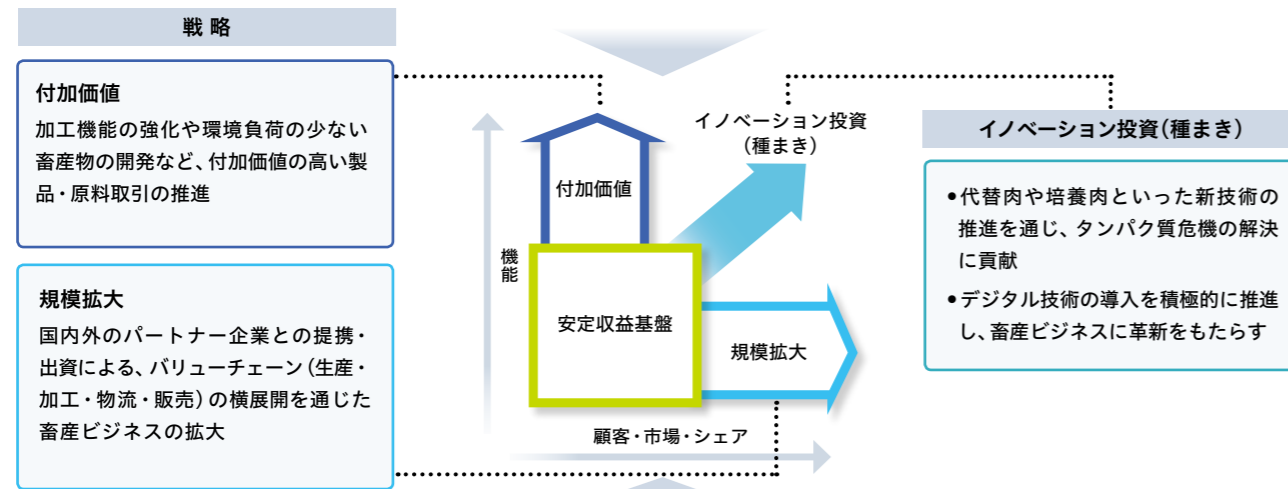
### 重点的に取り組むSDGs目標

当部門は、ウルグアイビーフなど環境負荷の少ない畜産物の取引を推進するとともに、新たな産地・サプライヤーの開拓や、代替肉をはじめとする食の新技术への積極的な取り組みを通じ、持続可能な食資源の確保に貢献する。



## 市場の中長期展望

国内は成熟市場、アジアは成長市場。成功の鍵は、国内外のビジネスパートナーとの信頼関係の維持・深化だと考えています。



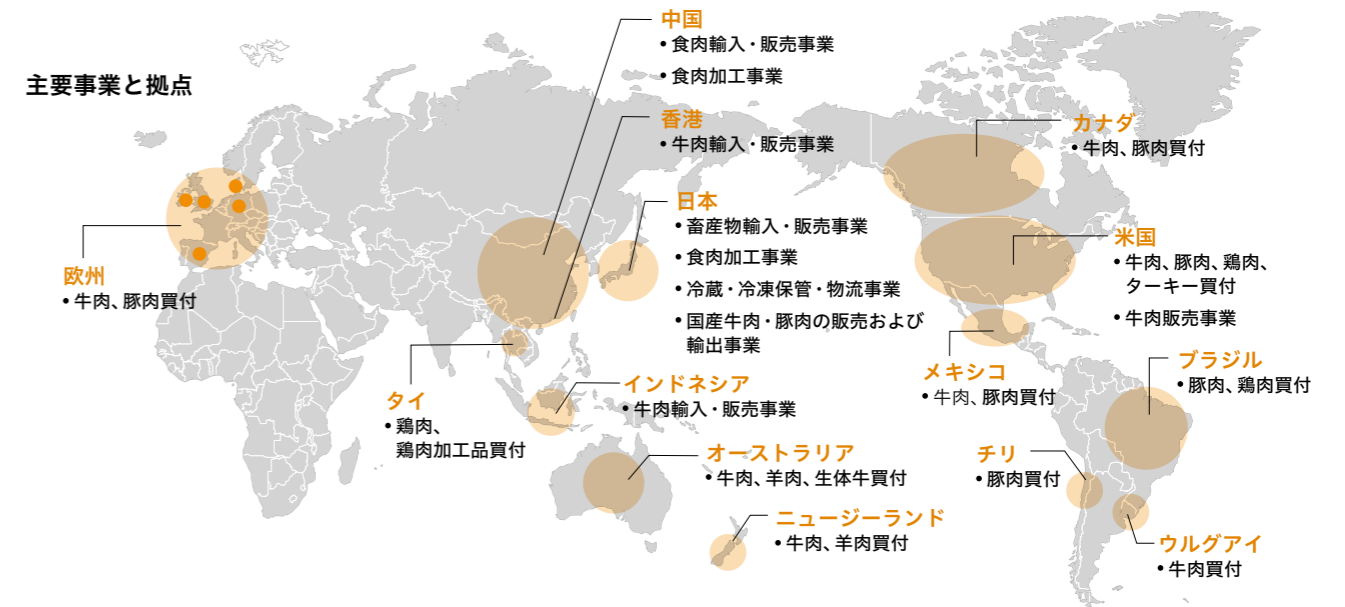
### 戦略やイノベーションを遂行する力(重要な資本)

知的資本	業界トップクラスの市場シェアを有する畜産業界のパイオニアとして得た、長年の知見の蓄積と商品群
人的資本	畜産の生産・加工・物流の実務経験を有し、事業を創造&マネージできる専門人材
社会・関係資本	長年にわたり築き上げてきた、国内外のビジネスパートナーとの信頼関係

## 中期ビジョン進捗: 2023年3月期の主な取組み

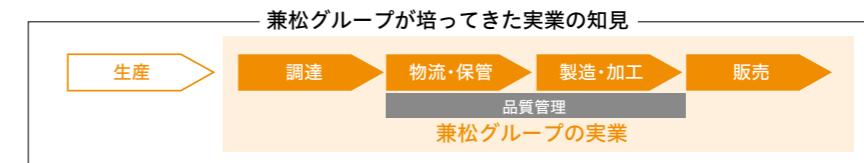
顧客のニーズに合った安全・安心で付加価値の高い商品の安定的な供給体制確立に向けて、バリューチェーンの構築を引き続き進めて参ります。川上においては、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する供給不安や、主要産地の価格高騰といったリスクに対応するため、新たな産地やサプライヤーの開拓を進めました。また、既存サプライヤーへの資本参加・業務提携を通じた関係強化も進め、畜肉原料の安定供給体制構築をさらに推進しました。さらには日本、中国、

インドネシアにおいて、外食企業への出資や合併企業の設立を通じ、バリューチェーンの拡充を実現しました。また、畜産取引のWebプラットフォームの構築や、オウンドメディアによる輸入食肉の認知向上といった、デジタル技術を活用したDXも推進しました。今後も産地開拓、バリューチェーンの強化、DXやGXの推進を通じ、畜産業界のリーディングカンパニーとして業界を牽引して参ります。



## 兼松グループが培ってきた実業の知見

畜産業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



## 事業環境の認識

機会	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> <li>TPP11、日欧EPA、日米TAGなどによる輸入関税率低下を受けた畜産物の輸入量拡大</li> <li>アジア市場における畜産物に対する需要の拡大</li> <li>安全・安心に対する消費者意識の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内販売力強化のため、畜産グループ内の機能強化に向けた事業投資やM&amp;Aの推進</li> <li>アジア市場での畜産事業拡大に向け、日本におけるビジネスモデルの横展開</li> <li>既存サプライヤーとの取組み深化および新産地開拓による安全・安心で付加価値の高い、安定供給可能な商品開発の推進</li> </ul>
リスク	対応策
<ul style="list-style-type: none"> <li>紛争、パンデミック、家畜伝染病の発生等による供給不足</li> <li>原料相場の変動</li> <li>アジア市場における畜産物需要拡大による日本向け供給量減少</li> <li>将来的な世界的人口増加によるタンパク質供給不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地の多様化による仕入れ先の分散</li> <li>販売先の多様化および加工事業拡大による相場リスクの軽減</li> <li>サプライヤーとの取組み深化による原料調達力強化</li> <li>代替肉市場参入</li> </ul>

## 長い付き合い お取引先からのコメント

兼松グループには半世紀にわたり主原料である食肉調達において様々なご支援をいただいております。食品製造には、安全かつ安定的に原料を供給できるパートナーの存在が不可欠です。兼松グループには、そのパートナー探しから信頼関係の構築を担っていただき、弊社の原料調達に欠かせない存在です。

昨今は、VUCAの時代といわれるとおり、世界情勢は急激に変化し、先行きの不透明感が増すばかりです。今後も世界各国に幅広いネットワークを有する兼松グループのご協力をいただき、安心・安全な食品を提供し、お客さまの幸せな食生活に貢献して参ります。



丸大食品株式会社  
常務取締役 食肉事業部長  
福島 成樹

# 食糧

穀物・食品大豆・油糧種子、飼料原料、配合飼料



執行役員  
食糧部門長  
中嶋 潤

多種多様な食品生産の基礎となる各種穀物と生産資材を世界中から安定確保し、日本やアジアの食品メーカー様に安定供給を行っています。穀物価格の高騰は、一旦、落ち着いていますが、世界人口増加は続き、中でも、中間層人口増加によるタンパク質の需要拡大は著しく、その生産資材となる穀物の需要も更なる伸長が予測されます。気候変動や地政学的リスクが高まる中、安定供給と安定品質をお届けすべく日々機能を高める努力をしています。

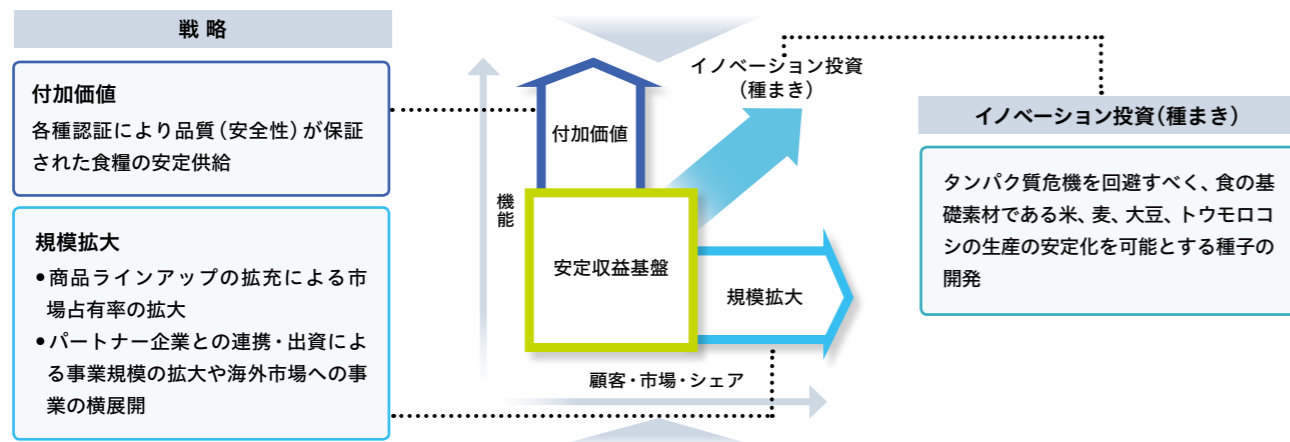
### 重点的に取り組むSDGs目標

気候変動と食糧需要増大により、世界の食糧生産と供給に注意を払う必要性が高まっている中、持続可能で管理された生産に基づく食糧の供給確保を行い、人々の健康で豊かな食生活を支援していく。また、新技術の導入による生産効率の向上を応援していく。



### 市場の中長期展望

タンパク質需要が拡大。一方で異常気象などにより供給リスクが高まる。成功の鍵は、生産安定化と品質管理だと考えます。



### 戦略やイノベーションを遂行する力(重要な資本)

知的資本	・米、麦、大豆、トウモロコシなどの主要穀物・油糧種子に加え、多岐にわたる関連商品群を安定供給できるバリューチェーンの知見 ・国内外の生産拠点から高品質な商品を提供できる品質管理の知見
人的資本	各商品の専門知識を豊富に備えた人材
製造資本	安定的な供給確保を可能とする世界の主要食糧生産地域に有する仕入拠点
社会・関係資本	安定供給を確実にするビジネスパートナーからの信頼と長い付き合い

### 中期ビジョン進捗：2023年3月期の主な取組み

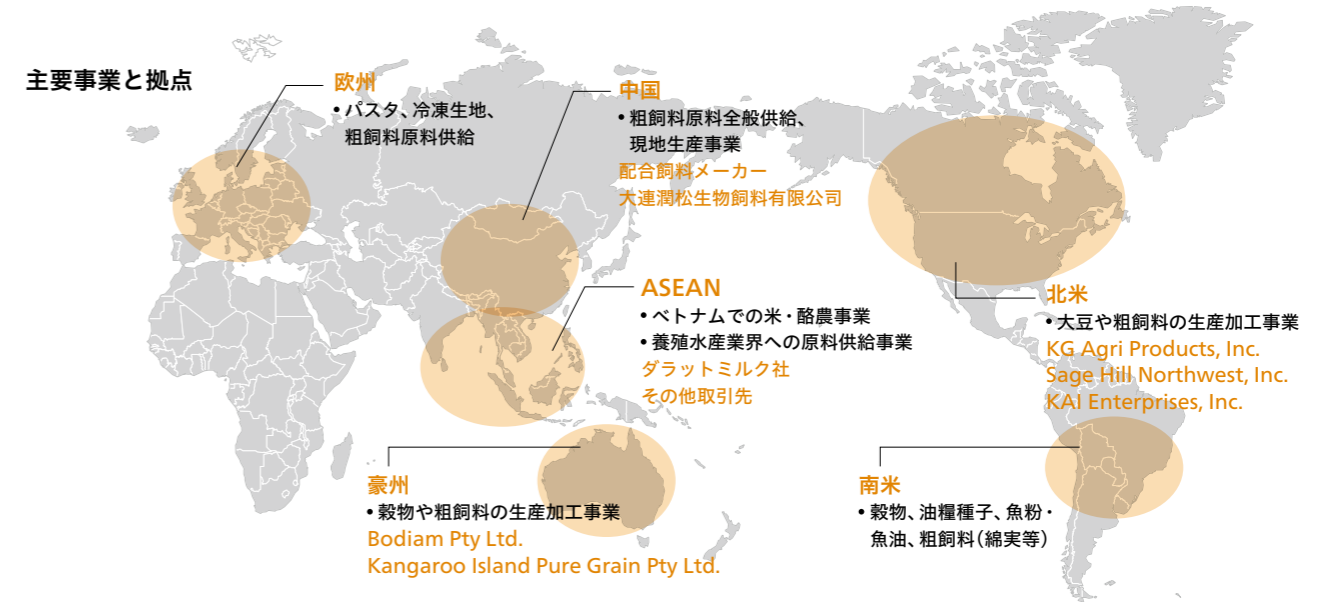
米（コメ）事業については、日本への輸入米の市場シェアがトップクラスであり、また東南アジアや欧州向けなどの海外取引も拡大しております。ベトナムでの無洗米やジャスミン米など、高付加価値米の取扱いを強化し、更なる米事業の拡大を目指します。

食品大豆・油糧種子事業については、北米での自社選別工場や協力工場からの多様な供給網を活用し、日本市場でのトップシェアを堅持しております。さらにゲノム編集やAI解析技術を活用した種子の品種改良、代替肉用の大豆原料、また、持続可能な大豆耕作および大豆セクターの社会的

責任を保証したRTRS（責任ある大豆に関する円卓会議）認証取得大豆原料（脱脂大豆）など、更なる付加価値の提供を通じ、シェアの拡大を目指します。

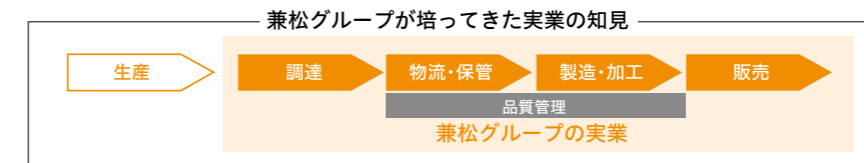
国内飼料事業においては、ウクライナ紛争やコンテナ物流混乱の中、世界各国の産地から多岐にわたる飼料原料の安定供給を果たしました。

海外飼料事業については、特に水産飼料原料における資源管理認証に対応しつつ、アジア市場における魚粉・魚油等の販売を拡大しました。



### 兼松グループが培ってきた実業の知見

食糧業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



### 事業環境の認識

<b>機会</b>	<b>アクションプラン</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>異常気象の常態化</li> <li>世界需要の増大</li> <li>品質への要望の高まり</li> <li>新技術の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルネットワークを活かした供給地域の多様化</li> <li>需要が増大する中国・アジア市場の取り込み</li> <li>配合飼料・肥料・大豆・牧草等の商品生産拠点における品質向上策</li> <li>IoT技術、ゲノム編集技術等による取引先の生産効率の向上に寄与</li> </ul>
<b>リスク</b>	<b>対応策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>相場変動リスク</li> <li>異常気象による供給リスク</li> <li>品質リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CME(シカゴ・マーカンタイル取引所)などの先物市場を活用しヘッジを実施</li> <li>供給元の多産地化により安定供給を確保</li> <li>川上での生産・集荷事業を通じた品質管理能力の向上</li> </ul>

### 長い付き合い お取引先からのコメント

兼松グループは、当社の主力商品の原料調達における最重要取引先です。農作物の調達には、天候不順・相場変動・地政学リスク等、様々な影響を受けますが、昨今の世界規模での新型コロナウイルス感染症のパンデミックやロシアのウクライナ侵攻によるサプライチェーンの断絶など、先行き不透明な状況にも直面し、調達部門における原料調達を取り巻く環境はますます厳しくなっております。

そのような状況下で、兼松グループには世界的なネットワークを駆使した多様な供給網および保有される自社供給拠点の活用、また、製造適性のある品種開発への取組みにより、アジリティーとレジリエンスの高い安定供給体制構築を図っていただいております。今後これらの機能を進化させ、当社との信頼関係を強化しながら、引き続き安定した原料調達を行っていただくことを期待しております。



キョコーマンビジネスサービス株式会社  
取締役 購買部長  
佐々木 裕司

# 鉄鋼・素材・プラント

鉄鋼、鋼管、化学品、エネルギー、プラント・船舶、工作機械・産業機械



専務執行役員  
鉄鋼・素材・プラント部門長  
菅 栄治

普通鋼・特殊鋼製品全般、エネルギーソリューション、化学品、産業プラント・インフラ設備、船舶など、幅広い分野において高い専門知識を備えたスタッフが、環境に優しく、付加価値の高い商品・サービスの提供、開発に取り組んでいます。

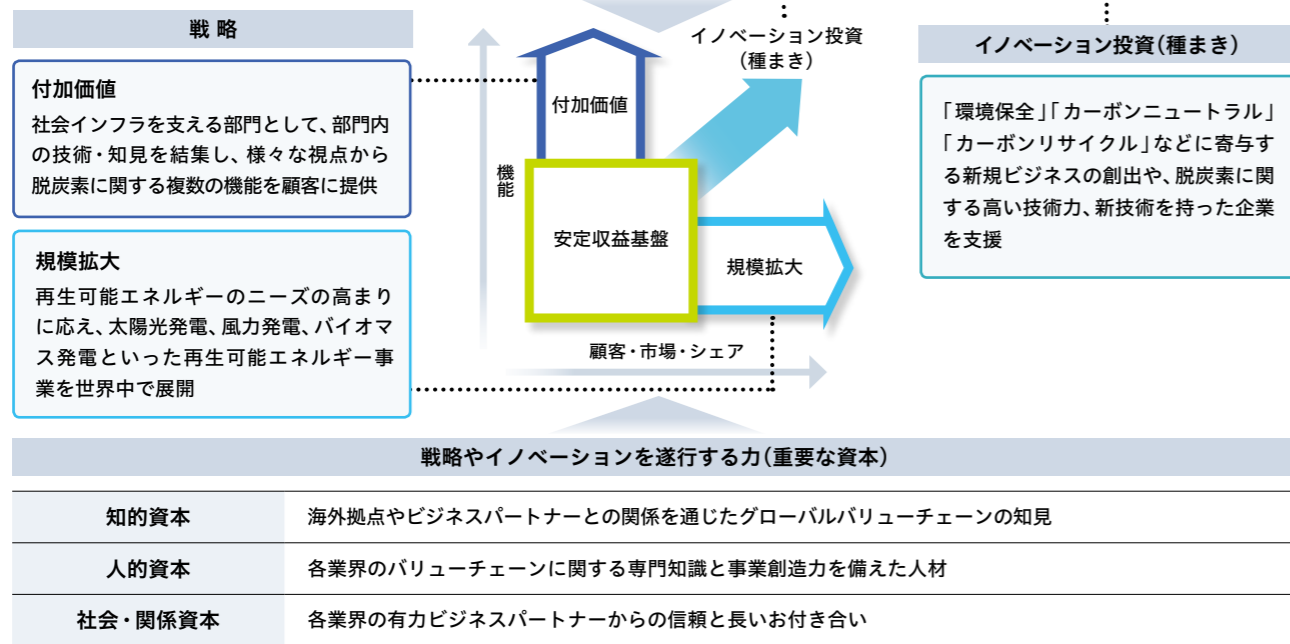
### 重点的に取り組むSDGs目標

当部門は、太陽光発電、風力発電、バイオマス燃料など再生可能エネルギーの推進や、環境に優しい素材の有効利用を通して、持続可能な環境の整備に貢献する。



### 市場の中長期展望

カーボンリスクの高まりにより、GXのニーズが拡大。成功の鍵は顧客の「脱炭素」への様々な支援だと考えます。



### 中期ビジョン進捗：2023年3月期の主な取組み

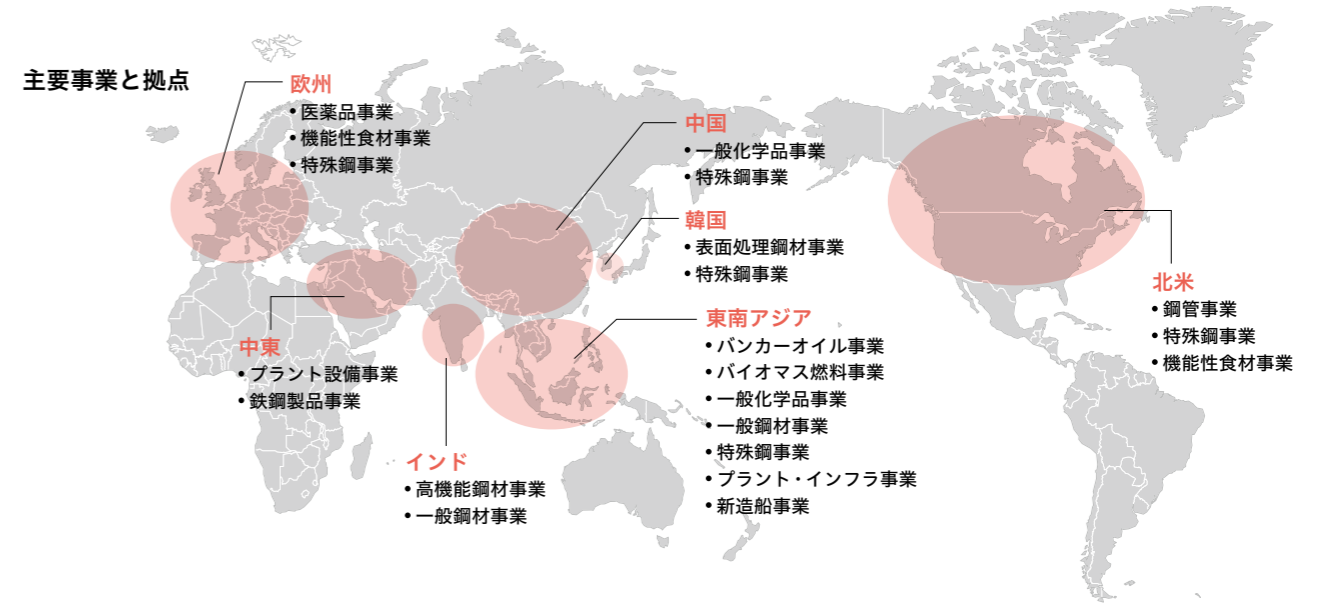
化学品事業では、機能性化学品、ライフサイエンス、ヘルスクエア分野といった既存の注力事業に加え、プラスチックリサイクルに関する新技術への投資を行うなど、積極的な事業拡大に努めています。

鉄鋼事業では、韓国やベトナムで出資する鋼材加工事業が順調に成長を続けており、工物件を手掛けるグループ企業とのシナジーも生まれています。

また、特殊鋼では、排煙脱硫装置や冷暖房機器、EV、水素・アンモニア製造装置といった環境を意識した分野でのビジネスが大きく拡大しており、取扱い商品も従来の汎用ステンレスから、高合金、ニッケル、チタンといった付加価値の高い商品へと範囲を拡大しています。

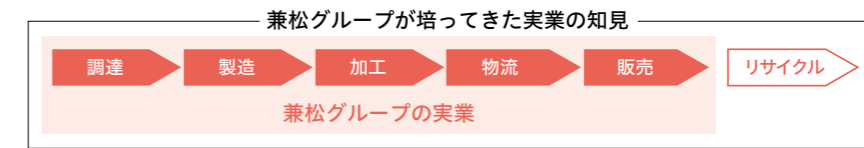
鋼管事業では、世界的なエネルギー需要の高まりの中、原油の掘削需要が堅調に推移したほか、新たに稼働を始めた北米ネジ加工会社のテクニカルセンターにおいては、CO<sub>2</sub>地下注入用鋼管向けネジの開発など環境関連への対応にも注力しています。

エネルギー事業においては、バイオマス燃料事業が順調に拡大を続けており、様々なエネルギー需要に対応するための体制づくりを行っています。プラント・船舶事業では、コロナ後の物流需要の高まりから韓国や台湾など新造船ビジネスが好調に推移、また太陽光発電事業、国内風力発電事業の取組み深化など、地球環境への貢献と事業の成長の両立を実現しています。



### 兼松グループが培ってきた実業の知見

各業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



### 事業環境の認識

機会	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> <li>化石エネルギーの需要減少など世界的なエネルギー市場構造の変化</li> <li>GX、SDGsに代表される世界的な環境問題への意識の高まり</li> <li>消費者のニーズや行動パターンの多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギービジネスへの取組み加速化</li> <li>より環境に配慮した高付加価値商品群の展開拡大</li> <li>DX推進により、顧客満足度向上による顧客との関係強化と新たなビジネス環境への対応を両立</li> </ul>
リスク	対応策
<ul style="list-style-type: none"> <li>通商問題の激化による更なる市場構造の変化、地政学リスクの顕在化</li> <li>事業投資の加速化による一時的な人材不足</li> <li>国際的な低炭素社会への移行に伴う、環境規制強化等によるビジネス環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな市場、商材、取引先の開拓による、商権散逸リスクの軽減</li> <li>通商問題リスク軽減のための高機能商材、独自規格商品の取扱い拡大</li> <li>国内外関係会社との人的交流を軸とした社員教育、経験の機会提供</li> <li>CO<sub>2</sub>削減をはじめとした環境保全に寄与する新規ビジネスの創出</li> </ul>

### 長い付き合い お取引先からのコメント

Benoitはエネルギー生産用鋼管のネジ技術により社会に貢献しています。革新的なテクノロジーと優れた生産性で、お客さまをマーケット・チャレンジャーからマーケット・リーダーへと押し上げます。

どんな会社も成功のためにはビジョンが必要です。兼松は11年前、Benoitの共同オーナーとなり、次世代のネジ技術を提供するためのサプライチェーンを確立しました。兼松はBenoitにビジョンを与えました。そのビジョンは、財務的支援、経営戦略の主導と共にここにちまで続いています。人、テク

ノロジー、製造設備への計画的投資により、伝統的なオイル&ガスセクターに加え、拡大するクリーンエネルギーのマーケットが求める製品を提供していきます。

過去5年間、Benoitは戦略的な計画により、エネルギー開発現場のニーズに応えるべくデザインされた優れた新製品、新たな研究開発拠点、最新式の製造施設を加えました。これらの施策により、新製品が売上の40%をも占めています。Benoitは今後もお客さまのマーケット・リーダーとしての地位を支え、兼松のビジョンのもとで進化を続けます。



Benoit Premium Threading, LLC.  
President  
Paul Fullerton

# 車両・航空

車両・車載部品、航空宇宙



上席執行役員  
車両・航空部門長  
城所 僚一

オートバイ・自動車用部品、および完成車両を取り扱う車両・車載部品ビジネスと、航空機機体・部品、および宇宙関連取引を行う航空宇宙ビジネスを、高い専門知識と豊富な情報量を駆使し世界規模で展開しています。

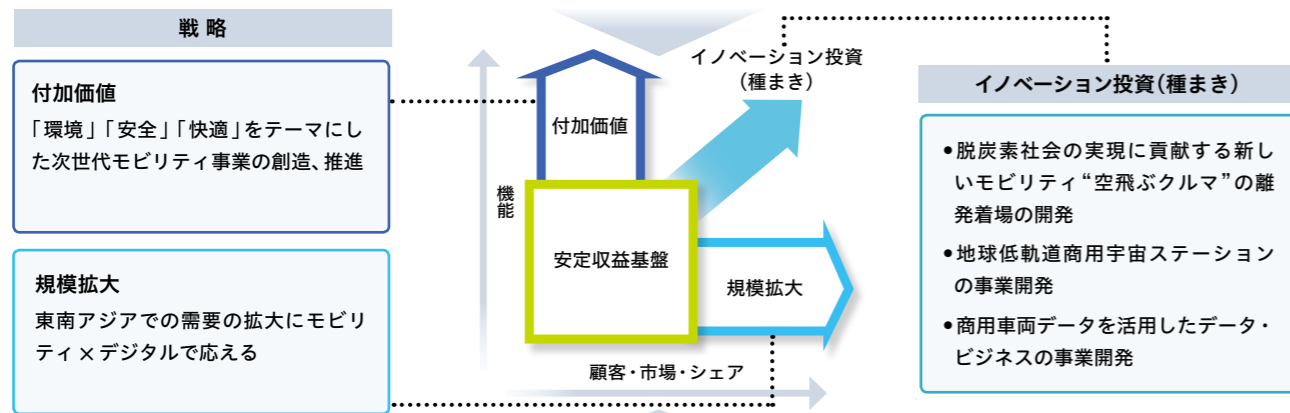
### 重点的に取り組むSDGs目標

安全で快適な移動手段(モビリティ)を提供することによる社会への貢献を目指す。また、次世代モビリティを通じ、環境に配慮した持続可能で事故のない生活環境をつくり上げることを目標とする。



## 市場の中長期展望

次世代モビリティ、宇宙市場が拡大。市場拡大においてはCO<sub>2</sub>排出も避けられませんが、軽量化や電動化などの技術革新による脱炭素化の動きも加速。成功の鍵は、「環境」「安全」「快適」をテーマにしたモビリティ事業の創造だと考えます。



### 戦略やイノベーションを遂行する力(重要な資本)

知的資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>モビリティ×デジタルの知見</li> <li>海外拠点やグループ会社を通じたグローバルネットワークを駆使したサプライチェーンマネジメントの知見</li> </ul>
人的資本	専門知識を豊富に備えた人材
社会・関係資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>全世界の業界を代表するビジネスパートナーからの信頼と長いお付き合い</li> <li>国内外の新技术、新ビジネスモデルを発掘する世界規模のネットワーク</li> </ul>

## 中期ビジョン進捗: 2023年3月期の主な取組み

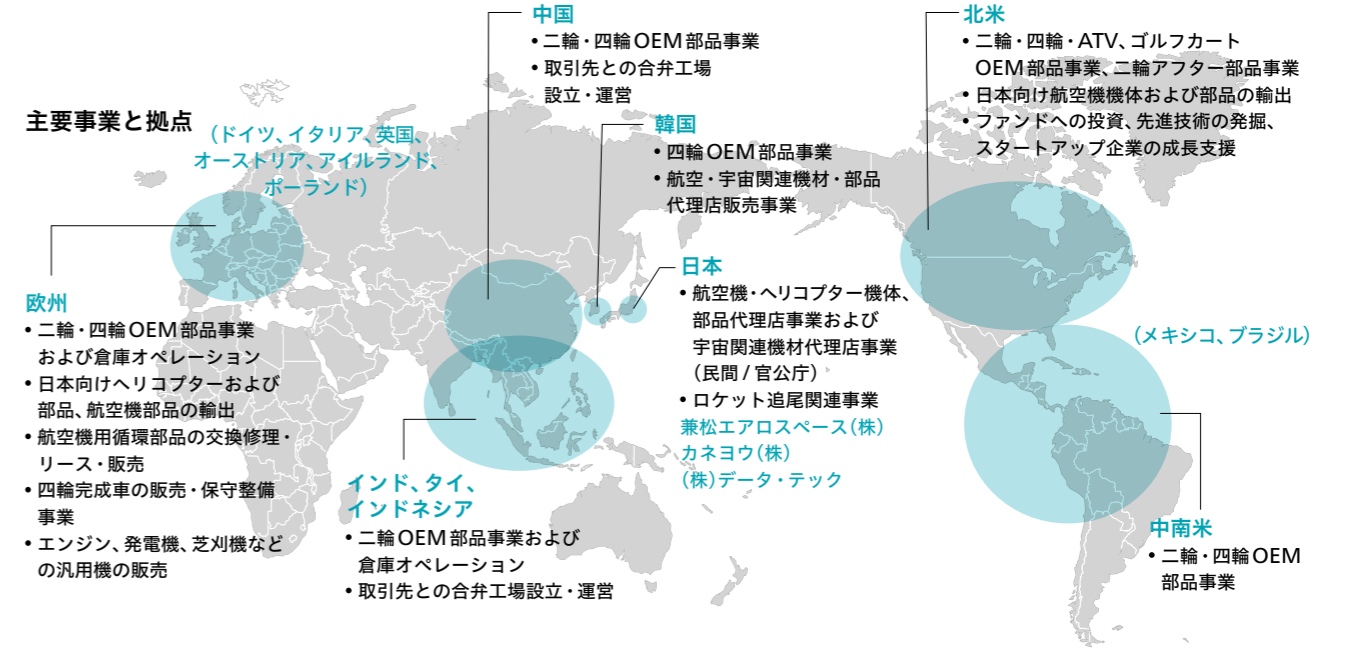
航空・防衛事業は地政学的リスクの高まりを背景に、取引が伸長しました。民間ビジネスにおいても、空飛ぶクルマを活用したサービスの社会実装を目指し、英Skyports社との協業で自治体との連携による実証実験を推進しております。宇宙ビジネスでは、米Sierra Space社と提携し、地球低軌道での商用宇宙ステーション活用に向けてネットワークを拡充しております。

二輪・四輪事業は、海上輸送費や材料費高騰の影響を受け

ましたが、市場は確実に回復の兆しを見せております。低炭素社会への貢献も視野に新たな事業にも挑戦いたします。

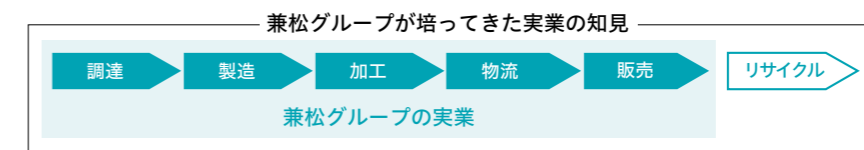
Kanematsu Ventures社や、ウエルインベストメント株式会社を通じたビジネス開発も加速させ、新興カーボンナノチューブメーカーへの出資を行いました。

「環境」「安全」「快適」をテーマに、部門横断で次世代モビリティ事業を創造、推進して参ります。



## 兼松グループが培ってきた実業の知見

車両・航空業界の幅広いバリューチェーンをカバーしており、多面的かつ多角的な事業創造の視点を活かします。



## 事業環境の認識

機会	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境・安全に対する意識の高まり</li> <li>技術革新、DX推進の加速に伴うモビリティの多様化</li> <li>先進国での移動手段の捉え方に対する変化</li> <li>防衛・商用の観点から重要性を増す宇宙開発への期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを活用し、環境負荷や事故を低減する新たな事業の創出</li> <li>北米シリコンバレーの投資拠点を核にスタートアップとの協業推進、新規ビジネス開拓</li> <li>空飛ぶクルマ社会の実現に向け、社会受容性を高める活動の推進とインフラ事業への取り組み強化</li> <li>宇宙安全保障分野の強化と地球低軌道領域での事業創出</li> </ul>
リスク	対応策
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境規制、貿易摩擦などによる需要変動や国際情勢、地政学リスクに伴う物流の混乱</li> <li>既存バリューチェーン、ビジネスモデルの枠を超える消費者意識や業界構造の急速な変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>価値の創造を基軸にした次世代ビジネスモデルの構築や物流ネットワークの再強化</li> <li>イノベーション投資により新たな技術、ビジネスモデルを取り込み、ハード・ソフト両面でのビジネス展開を推進</li> </ul>

## 長いお付き合い お取引先からのコメント

兼松グループとのお付き合いは、海外大手二輪車メーカーとの取引が始まった1983年に端を発します。かれこれ40年に及ぶ長い歴史の中で、顧客開拓や新規製品提案など、共に汗をかきながら販路を拡大してきました。また、欧州やアジアにおいて合併工場の設立、運営に参画いただくなど、苦楽を共にし、不況や競合相手といった様々な外部環境の変化にも耐え抜きながら、パート

ナーシップを強固なものにしてきました。2022年には、新興カーボンナノチューブメーカーへの両社共同出資を行うこととなり、新たな事業領域にも共に挑戦していけることを喜ばしく感じております。兼松グループのもつ幅広いチャネルや知見を本案件にも活かしていただけるよう、期待しております。



株式会社エフ・シー・シー  
常務執行役員 営業統括  
瀧上 禎史